

天塩川下流域自然環境改善への提言（案）

平成21年3月13日

天塩川下流汽水環境検討会
座長 今田 和史

天塩川下流汽水環境検討会は、「天塩川下流汽水環境整備計画」の策定にあたり、学識経験者や天塩川下流域に関わりのある地元代表者の意見を聴取するために平成20年6月に設置されたものであり、これまで天塩川下流域における汽水環境の回復や河川を利活用する地域産業の発展及び河川環境との共存について、議論を重ねてまいりました。

今般、本検討会の議論を踏まえて「天塩川下流汽水環境整備計画」が策定されたところですが、3回に亘る検討会では様々な意見が出されましたので、ここに提言として取りまとめました。

この提言には、天塩川下流域の自然環境の改善を図るうえで、早急に整備・実施することが望まれるものや今後十分な検討を必要とするもの、流域住民と連携しながら実施していくもの、また、他関係機関等と連携・調整を図り長期的に取り組んでいくものなどを記載していますが、「天塩川下流汽水環境整備計画」や「河川整備計画」の整備内容を越えた内容も含まれて降ります。しかしながら、このような取組みが今後の天塩川下流域の自然環境の改善に必要と考え、提言として記録に残すものです。

この提言が今後の各種事業や地域住民の活動の中で実施され、天塩川下流域の豊かな自然環境の改善に役立てられることを期待します。

提 言

- ・ 天塩川下流汽水環境整備計画に位置づけた整備以外に、今後、河岸の整備を実施する際には、画一的な整備を行うのではなく、整備箇所の地形や状況、特質に合わせた整備を行う必要がある。
- ・ オオワシやオジロワシは貴重な観光資源であり環境教育として活用できると期待されるが、河岸の整備によって、逆に鳥類にとって好ましくない状況となる可能性も懸念されるため、彼らの生態や行動を十分把握する必要がある。
- ・ 水辺におけるオオワシ、オジロワシの採餌環境を豊富にするために、高水敷を利用して窪地やまとまった河畔林を造成するなど、多様な環境の創出を検討する必要がある。
- ・ 天塩川に流入する排水については、流域住民や関係機関と連携・調整を図り、一層の水質改善に取り組むこと、また少しでも水質を改善するために樋門排水路や高水敷を利用した対策について検討する必要がある。
- ・ 旧川や排泥跡地等については、それぞれの特性に応じて、環境改善を図る必要がある。
- ・ 天塩川下流汽水域は、水質や生態系という観点からサロベツ川・パンケ沼などと密接に関係するので、関係機関と連携を図ってサロベツ川流域の環境をモニタリングし、環境保全・改善に取り組む必要がある。
- ・ 天塩川が子供たちにとって親しみや関心を持つ水辺空間や環境学習の場となるよう、流域住民と連携・協働して保全及び整備を行う必要がある。